

座がみて 燦

言わせて!
今日の芝居
五十字劇評 No.39

【五〇代】
▼お栄の絵師としていきた
い情熱溢れる姿が格好良か
った。舞台中央のターンテ
ーブル、斜めの道、格子の
障子、幕間の棒(円、斜面、
四角、線)、そして柔らかい
布を使った舞台設定の美し
さが気に入りました。音量
はちよつと大きすぎました。

(女性)

▼久々にお昼のステージを
観に行つて、寝てしまいま
した。すみません。終盤目
覚めて、もつとちやんと観
ればよかつたと：後悔。

(女性)

▼竹や布とシンブルな道具
でその時代の背景が表現さ
れていてとても良かつた。
お栄に燦々と光が降り注ぐ
中さらに天からゆらゆら舞
い降りる絵画達スローモー
ションの中に引き込まれた。
素晴らしかつた。

(女性)

【六〇代】
▼演劇公演が可能か心配し
ていましたが、とりあえず
観られて良かつたです。も
う少しドラマの展開が説得
力あつたらと思ひます。何
にとりつかれて絵に引き込
まれたのかももう少し迫つて
ほしかつた。

(男性)

▼父北斎は、お栄を幼少の
頃から自分を継ぐ者、共感
者としてみていたのではな
いでしょうか。「吉原格子先
之図」に代表される光の魔
術師「応為」は、「江戸のレ
ンブランド」と呼ばれてい
るとか。江戸末期、女性が
仕事をし、個性を主張する
のは並大抵のことではなか
つたでしょう。しかし、父と娘、
お互いその才能を認めあい、
切磋琢磨する関係は羨まし
いです。二人は幸せだった
のではないのでしょうか。残
念だったのは、前半、コロ
ナのせいで参加者が半減し
たせい、台詞が響きすぎ
て聞き取りにくかつたこと
でも、意外にもカツラなし、
簡素な舞台が登場人物に集
中できてよかつた。(男性)

▼円形の回り舞台の流れる
ような場面展開に目を見張
り、お栄の絵筆一本あれば

生きていけるといふセリフ
を聞き見ごたえを感じた!!
(女性)
▼斬新で想像力をかき立て
られる芝居ではあつたが、
声は聞こえるが台詞として
聞こえづらい場面があり、
少し残念。脚本はともよ
かつたので、もう一度長田
作品をてがみ座で観たいと
期待をいだかせてくれた。

(男性)





▼迷いながらも自分を伸ばしていこうとするお栄の力強さに圧倒されました。古きに新しさがうまく組み合わさっていたと思います。

▼今回強く感じたことは三点。一つ目は、お栄のいい絵を描きたいという欲求とそれが思うようにならない葛藤がストレートに伝わってきた。シーボルトと花魁のくだりが、お栄の大きな転換点になったことも分かりやすく描かれていた。演

じた前田亜季さんが良く演じていたと思う。お栄の母や花魁の夕霧を演じた石村みかさんも達者だと思う。二つ目は、舞台美術がとても斬新だったこと。舞台の展開、転換、音響など新鮮に感じた。三つめは、作者長田育恵さんの脚本の面白さを感じた。長田作品、て

(男性)

▼斬新な舞台演出に想像力がかき立てられた。老齢になっても犬一匹満足に描けないと嘆く北齋に仕事人の気概を教えられた。(男性)

▼情熱。曲がりくねったり一途だったり。男女の性差。師匠と弟子。芸術よりも、ただ描く事が生きる事の人々。(女性)

(女性)

▼創造で観せられました。お栄のパワーにも・・・。休憩なしの芝居に集中し、マスク姿の観客の中での芝居ありがとうございました。誰かが「こんな芝居が観れて今日は来て良かった」とつぶやいてました。私も同感！(女性)

▼女性が絵師の世界に挑む苦しみと悲しみが舞台から伝わりとても力強い作品でした。お芝居の流れも新しく俳優の方々の熱意が感じられました。(女性)

(女性)

▼若いエネルギーを感じられる芝居でした。特に和モダン風な舞台演出が面白かったです。色々なモノ、時や場所、状況を想像させる布？不織布？和紙？の使い方が新鮮でした！(女性)

【七〇代】

▼舞台装置に感動しました。吉原格子先之図の絵の中で棒が布が想像力をかき立てられました。黒と赤の使い方も。(女性)

(女性)

▼舞台を見て中央が家の中で、周りは外かと思っていました。現代風にアレンジしたのか、よくわからないパフォーマンスと音楽で始まり、弟子たちかと思えば違うようだし、すべてが外かと思えば家の中。ただひとつ偉大な父のもとで、葛藤しながらも本物の絵師になって葛飾応為と画号をも

らったお采に感動しつつも、芸術家を理解するのは難しい。
(女性)

▼おもしろかったです。観ることを断念した人に観てほしかったと強く思いました。浮世絵をほうふつさせる舞台作りと若い人の活々としたいいお芝居でした。
(女性)

▼女性絵師として一人立ちしていくお采に少々感動(役者の力不足あり) 斬新な舞台作り良かった。これからの長田育恵さんMeTooの運動の中でどんなお芝居を見せてくれるのか多いに期待しています。(女性)
▼いやあ、おもしろかったよかった。脚本演出、若い劇団応援したいです。なんとなく井上ひさしがちらちら。舞台には色がないのに、せりふにたくさんの色が出てきて、大火事が見えてき

ました。柳橋物語の江戸の大火事のような。大波のむこうに小さな富士の図は望遠鏡から思いついたのかも。
(女性)

▼自分を女と認め、心のうちを見つめて弱さをさらけ出した時の台詞「この色を出すためにお前がほしい」。前田亜季さんの表情に思わずドキツとした。一癖も二癖もある北斎を演じた酒向芳さんとても良かった。いい舞台だったのにコロナウィルスの影響で観客が少なかったのが惜しまれた。
▼役者のエネルギーがものすごく伝わってくる舞台で、こういう劇団を待っていた!!次は満席の会場で迎えた!!。頑張れ、てがみ座!!

編集スタッフから

私は、生の舞台が、一回限りでできては無くなる、はかなく贅沢な瞬間であることがとても素晴らしいと思っています。まさにその限られた時間を役者と観客が共有するところに、ちょっと大げさに言えば、ある種の共同体・小宇宙が存在するのかもしれない。そんなかけがえのない瞬間を、あなたの感想で切り取ってみませんか!

「イヌの仇討」の

劇評締め切りは

5月15日(金)

座席シール発行最終日です。

